坂井小学校だより

平成 30 年 12 月 26 日
No.11
校長　窪田尚幸

◆2学期終業式　校長講話「安坂将軍塚の鉄剣」より

登校日数８５日の２学期も今日で終了します。皆さんが、命に関わるような大きな事故等にも遭わず、ここに元気で集えていることに感謝します。

２学期のはじめに、私が皆さんに「パイオニアとして頑張っている中１の先輩たちに続いて！」という話をしました。そのために、児童会スローガンの実現とふるさと坂井の宝を学んでほしいと話しました。どうだったでしょうか？

さて、２学期最後の窪田校長の話は、これです。（安坂将軍塚出土の鉄剣の写真を提示）
今日は「安坂将軍塚（安坂積石塚）古墳」から出土した鉄剣・刀について話したいと思います。これらの出土した物は、長野県の宝、県宝にも指定されており、坂井の一番の宝と言ってもいいかと思います。これらの出土品は、冠着荘隣の筑北村歴史民俗資料館に展示保管されているので、一度、本物をじっくり見に行ってみてください。安坂将軍塚については夏休み中に４年生の宮坂栄寿君が調べてくれていましたね。

【安坂将軍塚出土の剣（上）と直刀（下）】（県宝）

【刃物を研ぐための石】（上の砥石が県宝）

【安坂将軍塚出土の鉾（ほこ）】（県宝）

【砥石をかける前の仕上げに使う工具】（県宝）

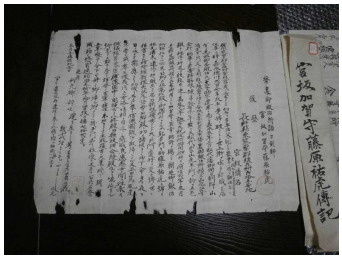
【安坂将軍塚１号墳】

↑　１号石室　　２号石室　↑

＊鉄剣等は２号石室より出土

【昨年度６月に見学した今の６年生
と宮坂啓一・やよいさんご夫妻】

【宮坂佑虎作の刀】



【宮坂家に残る貴重な古文書等】

安坂将軍塚古墳（1･2 号墳）は筑北地域で最も古い古墳で５世紀(401~500 年)中頃から後半に作られました。今から 1500 年以上前のことです。この古墳は安坂中村の東山の斜面、ふもとから 150 m程の高い所にあります。朝鮮に多く存在している積石塚古墳だと言われています。今は樹木が生い茂りあまり見渡せませんが、以前は坂井・麻績地域を広く見渡すことができました。この古墳に葬られた人は、朝鮮半島から渡ってきた渡来人の一族の可能性が極めてた高いと考えられています。また、平安初期の歴史書『日本後紀』延暦十六年(797 年)三月条に「信濃国人で外従八位下の前部綱麻呂に、安坂の姓を賜う」と書いてあり、古代朝鮮の高句麗か百済からの渡来人であり、古くからこの地の地名であった「安坂」を姓として朝廷から与えられたことを示しています。つまり、綱麻呂の祖先がこの古墳に埋葬されていたと考えられます(『坂井村誌』による)。しかし、埋葬されている人は日本人で、渡来人を技術者として招いた有力な支配者・豪族（伴造）ではないかとも考えられています(「坂井村の古代・中世の歴史について」ー志茂樹先生講演筆記による)。この問題については、是非とも皆さんの手で解明していってほしいと思います(雑誌『信濃』掲載の「長野県東筑摩郡坂井村安坂積石塚の調査」には、充分な答えを出すことはできないがと記されている)。さらに、出土した鉄剣の保存状態がよかったため片面を研磨したところ、大変優れた技術で作られていることが分かりました。「青紫色に澄みとおる」ように見える鉄剣だと高く評価されています。このような剣を作る技術は、当時の日本にはまだなく、渡来人が関わっていたと考えられています。出土した鉄剣がこのように研磨されて、今もその美しい輝きを残しているということは本当に貴重なことなのです。坂井は勿論、筑北の自慢です。いずれにせよ将軍塚の主はまだ不明ですが、朝鮮からの渡来人がこの地にいて、新たな文化や高度な技術をもたらしてくれたことは確かな事実なのです。

実は、剣・刀と言うとこの坂井には刀の話がまだあります。今の中一の先輩と６年生は知っていますよね。そう、宮坂太葵君の家の近くに住む宮坂啓一さんのご先祖の宮坂加賀守藤原佑虎さんの作った刀です。ちょうどＮＨＫの大河ドラマ「西郷どん」と同じ、江戸時代の終わりから明治にかけて、この坂井には立派な刀匠、刀鍛冶がいたのです。朝廷、京都に住む天皇まで作った刀を納めに行っています。佑虎さんの弟の（市川）寛次郎さんも同じく刀匠でした。

坂井に伝わる安坂将軍の鉄剣や佑虎さんたちの刀についても、これから皆さんに詳しく調べてほしいなと思います。私もお手伝いしますよ。

さて、明日からは冬休みです。大そうじにお年取り、お正月。家族や地域での行事を大切に過ごして下さい。「もちなし正月」という風習も大切に受け継いでいって下さい。

では、１月８日にまた、元気に会いましょう。

以上で、終業式の窪田校長の話を終わりにします。よいお年を！